

## 「TURN」令和3年度事業一覧

※事業内容等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

### 1. TURN 交流プログラム

アーティストが、福祉施設や社会的支援を必要とする人の集うコミュニティへ赴き、その場所を利用する人や支援者等との交流を重ね、相互に関係しあうプロセスを構築します。



マチーデフ×豊島区立心身障害者福祉ホーム  
さくらんぼ



伊勢克也×桃三ふれあいの家



パボとユミ×上町工房

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン等による遠隔での交流も実施します。  
※プログラムの様子は、TURN 公式ウェブサイトのタイムラインでご覧いただけます。

### 2. TURN LAND

TURN を日常的に実践する場「TURN LAND」を展開します。

#### 交流先施設の LAND 化

福祉施設やコミュニティが、アーティストとともに市民も参加可能なプログラムを企画します。従来のケアや支援の機能を持った場所に、市民が集まることのできる地域にひらかれた文化施設としての役割を加えます。



クラフト工房 La Mano (町田市)



気まぐれ八百屋だんだん (大田区)



ハーモニー (世田谷区)

#### TURN 運営本部

NPO を中心とする事務所機能と、「TURN」の運営を補助する「サポーター」を多く輩出できるよう、研究会や研修プログラム等も実施する情報発信のハブ機能を担います。

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン等による遠隔での交流も実施します。  
※開催日・プログラムの詳細は、随時 TURN 公式ウェブサイトにてご案内いたします。

### 3. TURN フェス6

各地で展開している「TURN 交流プログラム」や「TURN LAND」等を通して育んできた活動を紹介するとともに、オリジナルプログラム等の実施を通して、アクセシビリティやダイバーシティに関する理解を深める機会をつくりまします。また、社会状況に応じて令和2年度にアーティストや各方面の専門家たちと展開したTURNに関わるリサーチ「TURN ラボ」から生まれた新しいアプローチを共有する場を通して、持続性のある活動のあり方を考える機会を創出します。

#### 開催概要

- ・日程:令和3年8月17日(火)～19日(木)
- ・会場:東京都美術館 ほか



令和元年度会場風景  
池田晶紀と  
きょうされんリサイクル洗びんセンター、  
シュレ大学



令和元年度会場風景  
大西健太郎と板橋区立小茂根福祉園



令和元年度会場風景  
マダム ボンジュール・ジャンジほか

※プログラム詳細については、別途発表します。

### 4. TURN ミーティング

「TURN ミーティング」は、TURN を共有し、意見交換するひらかれた場です。参加アーティストや交流先メンバーなど関係者とともに、スペシャルゲストを招いたトークやTURN についてのディスカッション等を繰り広げます。



第8回TURN ミーティング (令和元年5月)



第11回TURN ミーティング (令和2年9月)



第12回TURN ミーティング(令和2年11月)

※プログラム詳細については、別途発表します。

## 5. 海外展開

日本国内のみならず、東京藝術大学及び国内外の文化芸術機関等と連携し、海外でも実施しています。これまで世界6か国(アルゼンチン、ペルー、ブラジル、エクアドル、キューバ及びポーランド)で活動を展開しました。



TURN in HAVANA (平成31年・令和元年)  
中村奈緒子、ルース・マリエット・トゥルエバ  
[キューバ]



TURN in TUCUMAN, BIENALSUR (令和元年)  
曾根麻衣  
[アルゼンチン]



TURN in Poland (令和元年)  
許允(ホ・ユン)  
[ポーランド]

## 6. 広報・ドキュメント

「TURN」の活動をことばに綴る「TURN NOTE」、「TURN」を多角的に集録する「TURN ジャーナル」を制作、発行します。また、公式ウェブサイトやSNSを通して、「TURN」を積極的に発信していきます。

### ■TURNとは

TURNとは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト。アーティストの日比野克彦監修のもと、東京2020大会の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして平成27年度に始動しました。平成29年度からはオリンピック・パラリンピックの東京2020公認文化オリンピックアードとして事業を実施。令和3年度は東京2020 NIPPON フェスティバル共催プログラムとして事業を実施します。様々な分野の機関と連携・協力してプログラムを展開していくことで、一人ひとりが異なる“その人らしさ”を尊重できる関係性のある豊かな社会の創造を目指しています。そして、日本における新しいダイバーシティの試みとして国内外へ発信するとともに、「TURN」の考え方や仕組み、場をレガシーとして継承していきます。

<https://turn-project.com>

